

## 【p56～p61】 生まれかわるけしき —淡路夢舞台—

### 1 資料活用にあたって

- 長文のため、前日までに家に持ち帰らせて家族と一緒に読ませておく。授業では、紙芝居や場面絵・写真をもとに語り聞かせるなどの工夫をして、話の筋を理解させると良い。
- 本資料は、森の下草刈りのボランティアに取り組んでいるお父さんの心を考えさせる際に、「みんなのために働こう」に焦点をあてれば内容項目はC（12）になり、「自然や動植物を大事に守り育てよう」に焦点をあてれば内容項目はD（18）になる。

### 2 資料の読み方のポイント

- ※ 展開の具体例は、内容項目C（12）の展開を想定している。
- 変化するのは：たかし（子どもが たかし になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：ガイドのおじさんの話
- 変化するところは：「たかしは、お父さんが下草刈りのボランティアをしていることを思い出し、森の方を見ました。」

### 3 読み物資料の素材について

#### 【訪れたい場所】

- ・ 淡路夢舞台  
〒656-2306 淡路市夢舞台2番地 TEL：0799-74-1000
- 淡路夢舞台について
  - ・ 淡路夢舞台は、淡路島の東岸（淡路市）の海を望む高台にある自然豊かな観光名所である。かつてここは、緑豊かな淡路の森であったが、1963年～1994年の31年間、関西国際空港など大阪湾を埋め立てる土を採取したため、草木の生えない、動物も昆虫もすめない荒地となった。そこで、一度は人間が壊した自然を本来の姿に戻し、さまざまな動物や植物と人が共生できる空間の創造をめざして、100年後の森の再生に向けた取り組みが1994年にスタートした。
  - ・ 6年間で荒地は、緑豊かな風景に変わり、2000年には国際園芸・造園博「ジャパンプローラ2000」の会場となった。淡路夢舞台には、国営明石海峡公園や植物園、国際会議場などがあり、県内外から多くの人々が訪れ、親しまれている。
  - ・ 淡路夢舞台では、訪れた人たちに自然を守る大切さを知ってもらうためボランティアグループによる環境学習が実施されている。
- 森の再生について（ガイドボランティア竹元忠嗣氏からの聞き取りによる）
  - ・ 森の再生には、いろいろな工夫や人々の努力があった。淡路の森をとりもどすために、みんなで力をあわせて木を植え、森を育てようと、淡路の小学生がどんぐりの実や木のたねを集めた「ばべの実五万つぶ大作戦」。集めた実やたねを苗木に育て、岩だらけの急な斜面に植えた。
  - ・ 岩だらけの急な斜面では、苗木を植え、土をかぶせても雨が降ると、土が流されてしまう。そこで、斜面に蜂の巣のような形の囲いを作り、そこに土を入れて苗木を植えた。また、低いところにたまった雨水をポンプで高いところにくみ上げ、地面が乾いてくると、自動で水を出せるようにしたり、苗木の根元をわらでおおって、乾かないようにしたり、雑草が生えにくくしたりした。
  - ・ 現在、最初に植えた木々は、大きく生長し、以前からあったような森の姿になってきている。ウサギなどの小動物、蝶やくわがた虫などの昆虫、いろいろな鳥がやってきている。また、あちこちに落ちた実から、新たな苗木が育ってきている。しかし、本来の淡路の森に戻ったとはまだ言えない。もともとの淡路の森に生えている木々の種を鳥や動物や風が運んできて、その種が芽を出し何十年もかけてゆっくりと元通りの姿にもどっていくのである。そのためには、自然の力だけではなく、まだまだ人の手間がかかる。その一つが森の下草刈りである。下草が生えていると、運ばれてきた種は、大地に根を下ろすことができず、芽を出すことができない。運ばれてきた種から芽がでて苗木に育つためには、下草を刈り、森の手入れをしなければならないのだ。一度壊した自然を元に戻すには、まだまだ多くの人々の手間と時間が必要なのである。

## 4 展開の具体例

- ・ **主 題 名** ・ みんなのために C (12)
- ・ **資料の概要** ・ 日曜日の朝、一緒にキャッチボールをしようと思っていたおとうさんがボランティアに出かけてしまい、たかしはがっかりする。次の日曜日に公園のガイドツアーに参加したたかしは、ガイドのおじさんから自然を復元・保全するための人々の取組を聞き、お父さんが森の下草かりのボランティアに取り組んでいる気持ちに気づく。
- ・ **ね ら い** ・ ガイドのおじさんの話を聞いて道徳的に変化するたかしを通して、働くことのよさを感じて、みんなのために働こうとする道徳的心情を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ	副読本P57とP61の写真を見ましょう。
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・日曜日の朝起きた時の主人公の気持ちを考える。	朝起きて、お父さんがいなかったことを知ったたかしは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・お父さんとキャッチボールしたかったのに、がっかりだな。 ・どうして、日曜日なのにお父さんは、ボランティアに行くの。
	・お父さんが下草かりのボランティアをしていることを思い出した主人公の気持ちを考える。	たかしはどんなことを思って、森の方を見たのでしょうか。 ・下草かりは、たねがちゃんと芽を出すための大切な仕事なんだ。 ・お父さんは、緑の森をとりもどすために下草かりをしていたのか。 ・お父さんは、みんなのためにお休みの日に働いていたんだね。
	・下草かりをしているお父さんの顔を思い浮かべているときの主人公の気持ちを考える。	汗をいっぱいかいて下草かりをしているお父さんの顔を思いうかべながら たかしは、どんなことを考え始めていたのでしょうか。 ・お父さんは、みんなのために働いていたんだね。 ・お父さんが帰ってきたら下草かりのことを聞いてみよう。 ・ぼくも今度は、お父さんといっしょに下草かりに参加してみよう。
終 末	・感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

キャッチボールをしようと思っていたのに、お父さんが出かけていてがっかりしている主人公に共感させる。

ガイドのおじさんの話がきっかけとなり、お父さんがしている下草かりの大切さに主人公が気づいていることをおさえる。

みんなのために働くことの大切さを意識し始めている主人公の心情をおさえる。